



## 美しいと感じる心、感動体験



藤原 正彦氏

十年ほど前の6月ごろ、紫雲出山に登ったことがあります。山頂付近から見た瀬戸内海の島々に夕日が差し込む景色は息が止まるほどに美しく心が震えました。まさに絶景といえます。風光明媚（ふうこうめいび）な詫間町で住む皆さんは幸せです。

お茶の水女子大学の名誉教授である数学者、藤原正彦（ふじわらまさひこ）氏の著書「日本人の誇り」にある文章の一部を紹介します。

私はかつて、天才がどんなところから生まれるのかを調べたことがあります。天才といわれる数学者やノーベル賞を受賞した物理学者たちがどんな所で生まれ育ったのか、実際に足を運んで調べてみたのです。その結果、天才はある一定の条件がないと生まれないことがわかりました。一つ目は「天才は美しい場所で生まれる」ということ。面白いことに、人口に比例して天才が生まれるわけではないのです。経済的に豊かだからたくさん天才が育つわけでもない。



ラマヌジャン

インド出身の数学者にラマヌジャンという天才がいます。彼は高等教育を受けていないのですが、「なぜそんなことを思いつくのか想像もつかない」といったタイプの大天才です。私は彼の故郷に足を運んだのですが、その景色を見てとても驚きました。マドラスから南へ二百数十キロ、クンバコナムという田舎町なのですが、そこはかつてチョーラ王朝という裕福な王朝が栄えた地で、美しい寺院がたくさん建てられていたのです。ラマヌジャンだけではありません。クンバコナムの半径 30 キロの円内からは、ほかにもノーベル賞物理学者のチャンドラ・セカールや、ラマンといった天才が輩出されています。

美しい自然に囲まれていたり、素晴らしい寺院がたくさんあったりと、美しいものに囲まれている場所にたくさんの天才が生まれている。自然、音楽、芸術など美しいものを、自分のそばに置いておくことがいかに大切か、ということです。

みなさんは、夕焼けを見て美しいと思ったことがありますか？

**「夕焼けを見てもあまりうつくしいと思わなかったけれど、じをおぼえてほんとうにうつくしいと思うようになりました。」**

これは北代 色（きただいいろ）さんという方が書いた手紙の一部です。厳しい生活のため文字を覚える機会のなかった北代さんが68歳になって地域の識字学級で初めて覚えた文字は「北代色」という自分の名前でした。自分で書いた名前を病院で呼んでもらった時の嬉しさや、買い物が楽しみになったことなど、喜びが満面につづられたその手紙は、「十年ながいきをしたいと思います。」という一文でくくられています。北代さんはその手紙を書いた後も多くの字を学び、美しいものをたくさん見つけたことでしょう。

自分の中に「美しいものを、美しいと感じる心」を育てたいものです。そのために人は勉強をします。いつか、みなさんに「美しいものとの出会い」が訪れますように。